

〈成田空港の機能強化に関するレポート vol.2〉

平成28年3月29日開催

四者協議会^(※)におけるNAAからの報告および結果概要

※国土交通省・千葉県・空港周辺9市町・成田国際空港株式会社(NAA)の四者で構成

〈報告させていただいた主な調査の内容〉



長期的な需要予測

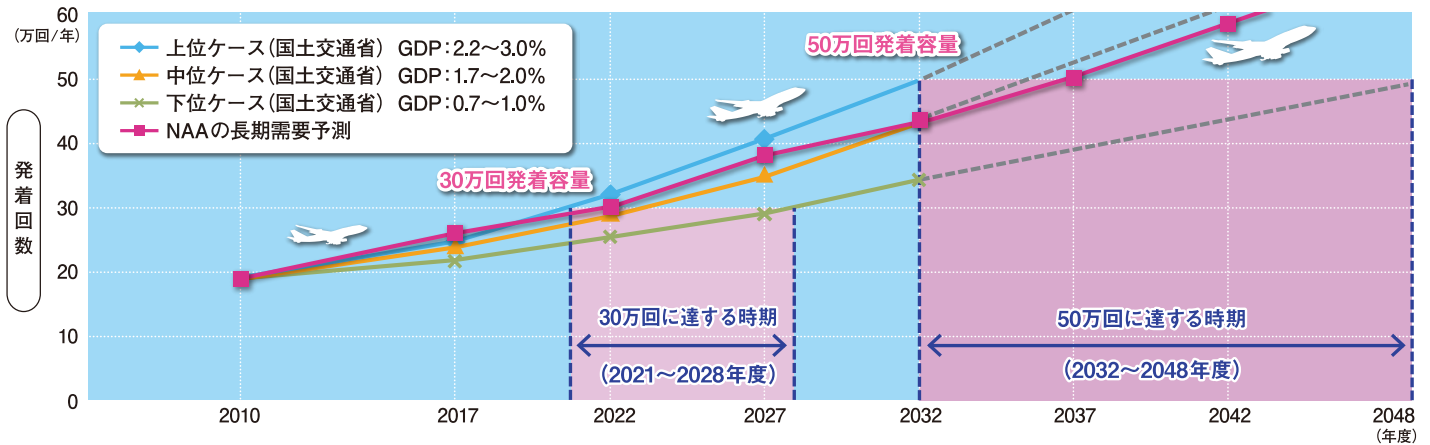


海外主要空港における敷地規模の事例



長期的な需要予測

年間発着回数の予測



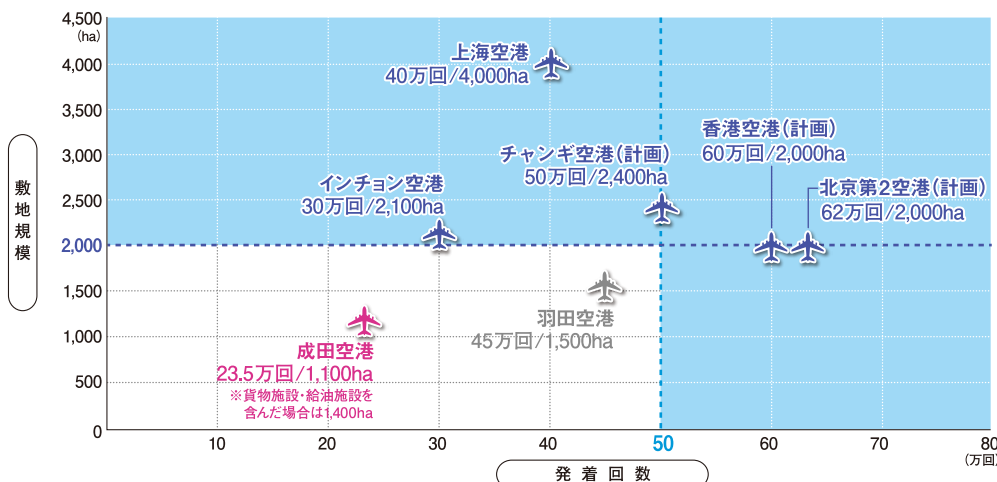
NAAでは今後見込まれる長期的な航空需要に関する調査を行いました。その結果、以下のことが分かりました。

- ▶ 年間発着回数は、**2020年代に30万回を超え、2030年代初頭から2040年代後半に50万回に到達する見込み**です。
- ▶ 年間発着回数50万回時においては、**旅客数は現在の約2倍(7,500万人)、貨物取扱量は現在の約1.5倍(300万トン)**程度に増加する見込みです。
- ▶ 離着陸する機材の構成は、**アジア諸国の経済成長に伴う近距離便の増加等により、小型機(B737、A320等)の比率が、現在の26%から52%へと過半数まで増加する見込み**です。



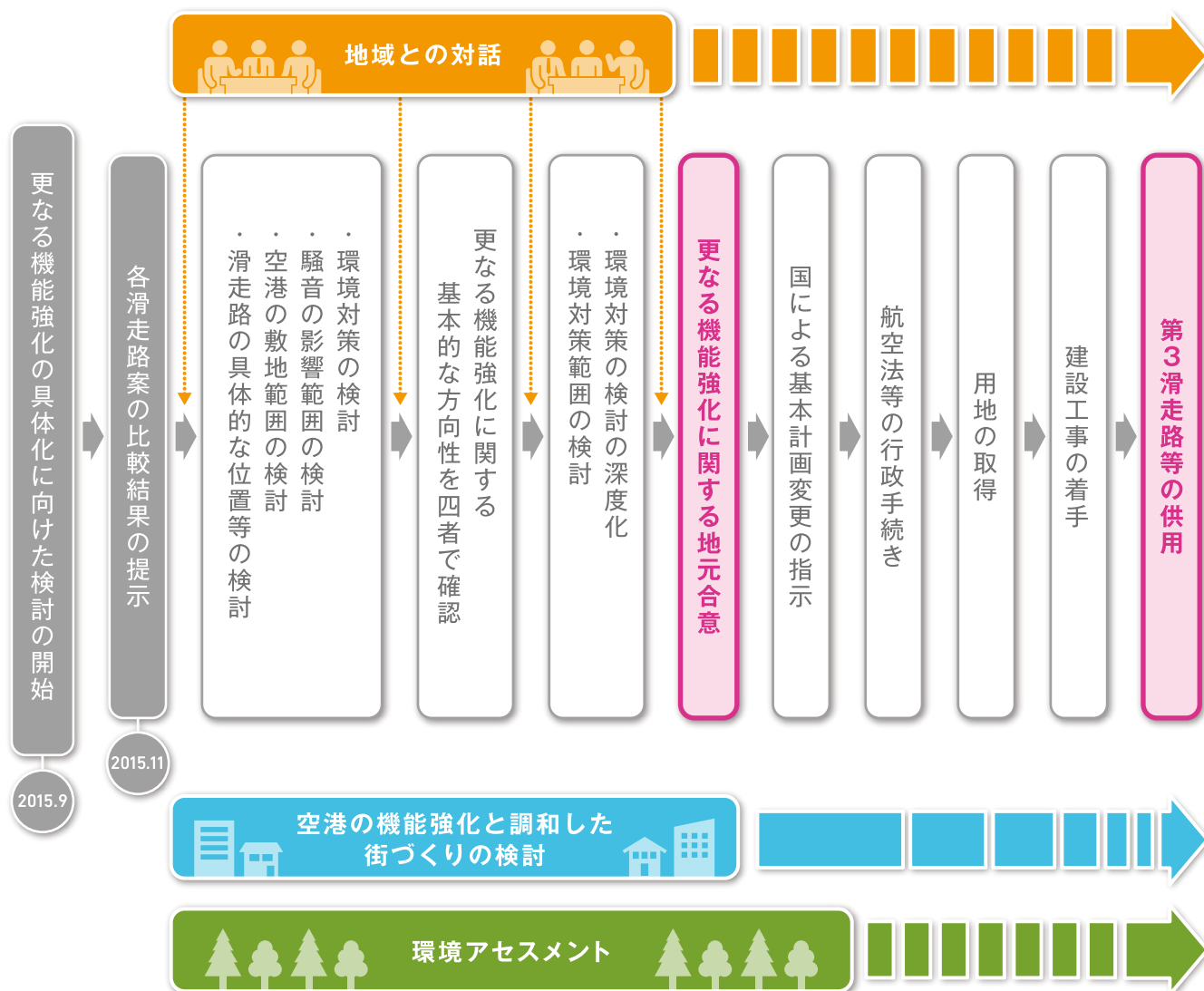
海外主要空港における敷地規模の事例

発着回数と敷地規模の関係



- ▶ 海外主要空港の事例によれば、年間50万回程度の発着回数を取り扱うためには、一般的に**2,000ha程度**の敷地規模が必要と見込まれています。
- ▶ こうした事例も参考にしながら、成田空港においては、今後、空港関係施設の必要規模等を詳細に調査しつつ、具体的に必要となる敷地規模を検討していきます。

空港の機能強化に向けた今後の流れ(想定)



- ▶ 地域の皆様からは、「滑走路の具体的な位置」「空港敷地範囲」「騒音影響範囲(騒音コンター)」「環境対策」の早期提示を求められており、四者で検討を進めていきます。
- ▶ また、「空港の機能強化と調和した街づくりの検討」や「環境アセスメント」についても、併せて作業を進めていきます。

以上のNAAからの報告を踏まえ、今後の進め方について以下のとおり関係者で確認されました

- 国及び空港会社は、具体的な滑走路等の位置案や、地域から指摘のあった騒音コンターなど機能強化に伴う航空機騒音の影響、これに対する環境対策等について、早期に提示できるよう、引き続き鋭意調査・検討を進めていく。
- 四者は、更なる機能強化策の検討に当たっては、環境対策及び地域振興の検討に加え、落下物対策や集落分断の解消等の地域要望への対応、滑走路建設等に伴う関連事業や自然環境への影響に関する調査等についても、協力して取り組んでいく。

